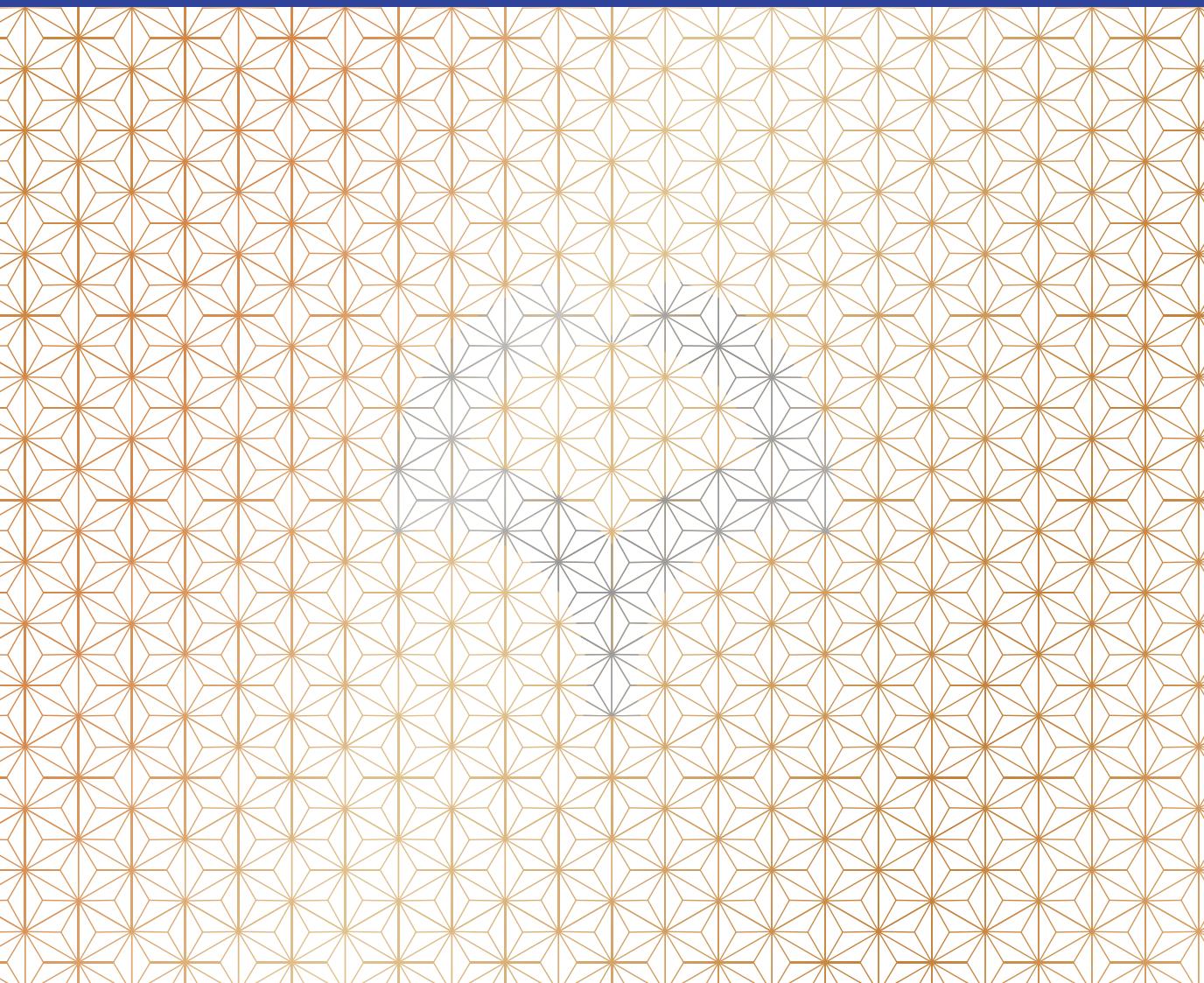


Winter 2018 / No.155

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 NOW



濃いっ！阪大 —吹田学舎誕生 編—

50年前のプロジェクトOU

“1968 吹田キャンパス誕生”

上記麻の葉文様は、子どもの健やかな成長を願う伝統的な意匠であり、
本学のダイバーシティがここから健やかに育つことを願って生まれたシンボルです。
同文様は、大阪大学共創イノベーション棟(2017年11月竣工)の内装に施しています。



西尾章治郎総長 平成30年 年頭挨拶

平成30年1月4日(木)、大阪大学コンベンションセンター MOホールにおいて、西尾章治郎総長から教職員に対して新年の挨拶が行われました。
全文は大阪大学公式Webページをご覧ください。



50年前のプロジェクトOU

“1968 吹田キャンパス誕生”

2018年の幕開けです。

実は、2018年は吹田キャンパスへの移転後50年の記念の年です。吹田キャンパスへ初めて移転してきたのが、1968年4月の微生物病研究所とその附属病院で、同年10月に産業科学研究所、それ以降、工学部などが次々に移転し現在に至ります。

私たちが当たり前のように過ごしている吹田キャンパスは、50年以上前は竹や雑木が茂る今とは異なる風景がひろがっていました。豊中キャンパスの実に2倍の100万m²を誇る巨大キャンパスの誕生には、当時の関係者の並々ならぬ努力と地域からの大きな応援がありました。

大阪大学五十年史等をもとに、吹田キャンパス誕生秘話を紐解きます。

悲願の キャンパス統合へ

7代総長赤堀四郎の頃、本学施設の統合整備の必要性が一層高まり、1962(昭和37)年4月、長期計画委員会を発足させて、その問題の検討を積極的に推し進めることになった。

その頃、工学部は東野田地区と枚方地区にあったが、1957～1958年には産業界の高度成長によって理工系技術者の大量需要が起き、学科および講座が急速な膨張を遂げ、同時に、科学技術の急速な進展に伴って、工学部の研究・教育体制とその施設を抜本的に改善する必要が生じた。2地区に分かれている不便さに加えて、主となる東野田地区は狭小で環境条件が悪化しており、これらの地においての実現が困難と認められ、移転を検討しつつあった。一方中之島地区にあった微生物病研究所においては、敷地面積の狭いことに加えて、都市公害による研究障害を来し

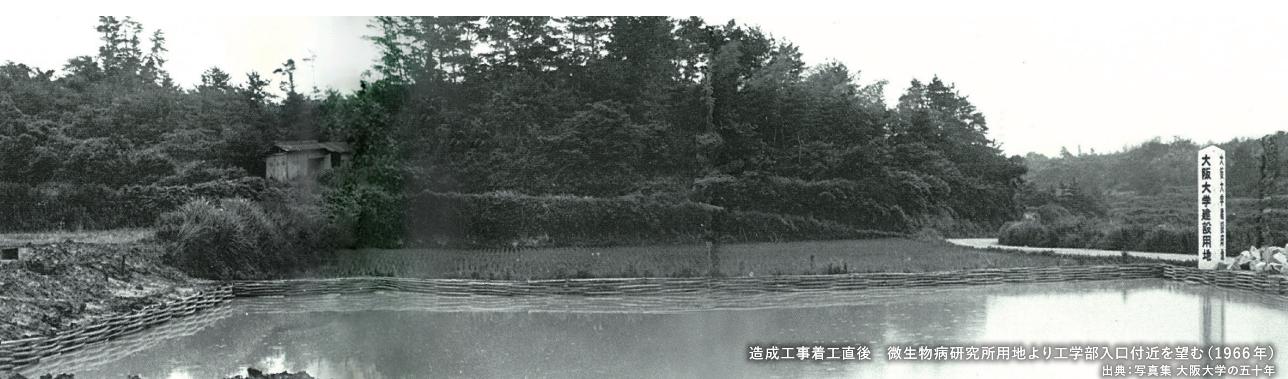
つつあり、また跡地利用についても電電公社から話があったので移転を考慮していた。また、堺市浅香山にあった産業科学研究所も移転を考慮中であった。

候補地「吹田」へ 難航の予感

現在の吹田地区への移転が検討されたのは1962年の暮であった。本学が移転用地を探していると聞いた当時の吹田市長村田静夫は、吹田市を将来学園都市化したいとの念願を持ち、本学のために積極的に用地を世話すると確約したことに始まった。そこで、当時の工学部長岡田實は吹田市と交渉を開始し、将来の拡張をも考慮して165万m²の面積の取得を希望し、暮も押し迫った12月28日に総長赤堀四郎、長期計画委員長足立孝(工学部教授)などの関係者が、新しく開発されつつ

あった千里ニュータウンに隣接する候補地の現地調査をおこなった。

その頃の候補地周辺は竹やぶ、松、雑木の茂った丘陵地であったが、格好の地と判断した関係者は、その165万m²の土地取得に全力をあげて取り組むことにし、全学の有志教授7人は連名で「全学集結の提唱」という趣意書を配布して吹田への全学統合移転を呼びかけた。そのメンバーは微生物病研究所教授藤野恒三郎、医学部教授小浜基次、工学部教授菅田栄治、同新津靖、同鷲尾健三、同菊川真、同伊藤富雄であった。この呼びかけに対して、その頃の候補地が交通不便の土地にあったこと、用地買収のための資金調達の困難さと買収工作のわざわしさなどから、必ずしも学内全部局の賛成を得るまでには至らず、説得には時間が必要のような雰囲気であった。



造成工事着工直後　微生物病研究所用地より工学部入口付近を望む（1966年）
出典：写真集 大阪大学の五十年



現在の千里門付近の様子（2018年）
撮影：企画部広報課



ムーブメントをおこし 逆風を越える

しかし、赤堀はじめ移転を希望する部局の関係者は、用地購入資金などの困難な局面を開拓するために大蔵省・文部省に出向いて理解を求めたり、本学後援会および吹田市の有力メンバーである朝日ビール社長山本為三郎に協力を依頼するなど、関係各方面に精力的に働きかけた。学内的にも1963年3月の部局長会議で、用地取得のための用地委員会が設置されるなど吹田移転に向けての態勢は固まっていった。

これに対し、政府も本学の統合移転計画に理解を示し始め、また吹田市長も本学の吹田市誘致を施政方針の一つとして打ち出すなど学内外に吹田移転の気運は高まっていた。このようにして1964年3月の長期計画委員会には吹田移転に関する第1次5ヵ年計画案が提出され、承認されて吹田移転の準備態勢はほぼでき上った。1964年6月には吹田移転を評議会決定し、同7月には1965年度統合整備概算要求書が提出された。

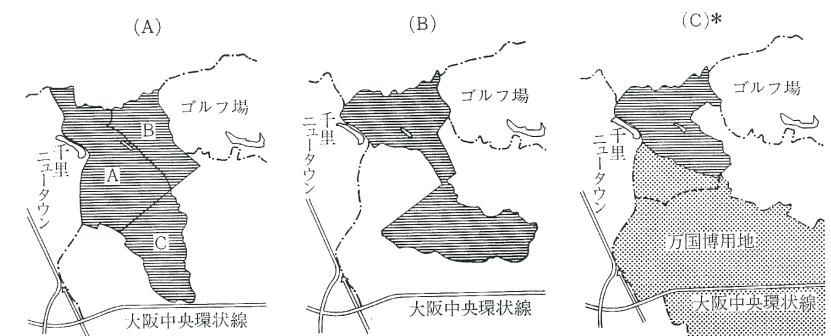
問題は用地買収とそのための資金調達であったが、吹田市は用地買収のために大阪府知事の許可を得て財団法人吹田市開発協会を1964年3月に発足させた。また学内においても財政投融資による資金調達に見込みをつけるかたわら、9月には大阪財界人11人からなる大阪大学移転統合期成会を結成して、政府関係筋に働きかけてもらうなど局面の打開に全力をあげた。こうした努力の結果、吹田市開発協会

においては農林中央金庫から融資が受けられることになり、また財政投融資による国立学校特別会計の借入金によるものであるが、1964年12月には用地取得費20億円が概算要求として計上された。これは1965年度から国立学校特別会計が設定されて、学校予算のなかに財産処分収入や借入金をも加えることができるようになったためであり、本学の移転にとっては好都合であった。

さらなる困難を越えて

資金調達の方策が検討されている間に、阪急電鉄不動産部が取得予定地の一部を競合して買い始めるなど、買収工作は必ずしも順調ではなかった。この間、大学で検討した結果、当初に買収予定の165万m²を100万m²に縮小することにした。その一方で文部省は、大蔵省と打ち合わせて、1965年11月、本学の吹田移転に関連して国立学校特別会計法施行令一部改正を議会に提出し、また12月には近畿圏整備法にもとづく本学の統合移転の閣議了解を取り付けるなど、本学の吹田移転を法的にもバックアップした。かくて、1967年から1972年までの間に、微生物病研究所、同附属病院、産業科学研究所、工学部、蛋白質研究所、学生寮の移転が確定し実施の段階に入った。

移転候補地のかなりの部分が私有地であるため買収が順調に進まず、また大学側の事情で用地を縮小したことなどがあつて、吹田市提示の候補地も図4-6(A)の第1次案から(B)の第2次案へと変わり、また1970年に開催された



吹田用地を色々な角度から見た空中写真(1965年)
所蔵:企画部広報課

日本万国博覧会の会場が千里丘陵に決定した1965年4月の時点では、本学用地として予定していたかなりの部分を大阪府に譲らざるを得なくなつたので、(C)のような約66万m²にほぼ落ちついた。それでもまだその中には未買収地が残り、さらにまた前記阪急電鉄不動産部所有の土地もあるなど、多くの問題をかかえていたが、1965年9月には吹田地区の輪郭がはつきりした。そこで、移転問題連絡会議(用地委員会の後身で、1964年11月に発足)で移転部局の調整をおこない、吹田全体計画第1次案を立案し、それが長期計画委員会、部局長連絡会議、評議会で承認され、さらに原則が確立され、具体的な計画作業がスタートした。計画の技術的部面については工学部の関連学科が総合して協力し、各種の難問を解決した。

吹田地区の幕開け

この第1次案においては、66万m²の敷地の利用法および各部局別の敷地面積の割当基準などを定めた。敷地利用法においては、文部省の「国立文教整備方針」に準拠して検討され、建物敷地(本来の建物敷地、道路、緑地、広場、駐車場を含む)の50%を空地として残し、将来の増設などに備え、また全体敷地の約10%を厚生施設としての運動場用地として確保した。次いで、まず幹線道路を決め敷地の割当基準にしたがって部局の位置づけをおこなつた(図4-7)。なお、この学舎の計画は次の点で独自性の高いものであった。(1)敷地の外周に沿つた丘陵部と敷地中央の犬飼池周辺の丘陵部などの山林を地区共通の自然緑地として保存し、豊かなみどりの景観を確保したこと、(2)学舎と学外地域とを遮断する堀・柵・門の類を一切造らず、開放的な学舎としたこと、(3)工学部において歩車分離を徹底し学内の遊歩環境を作り出したこと、(4)同好会システムによる通勤バスを通して足の便を向上させたことなどである。

100万m²の敷地を希望していた本学としては、万国博覧会終了後その跡地

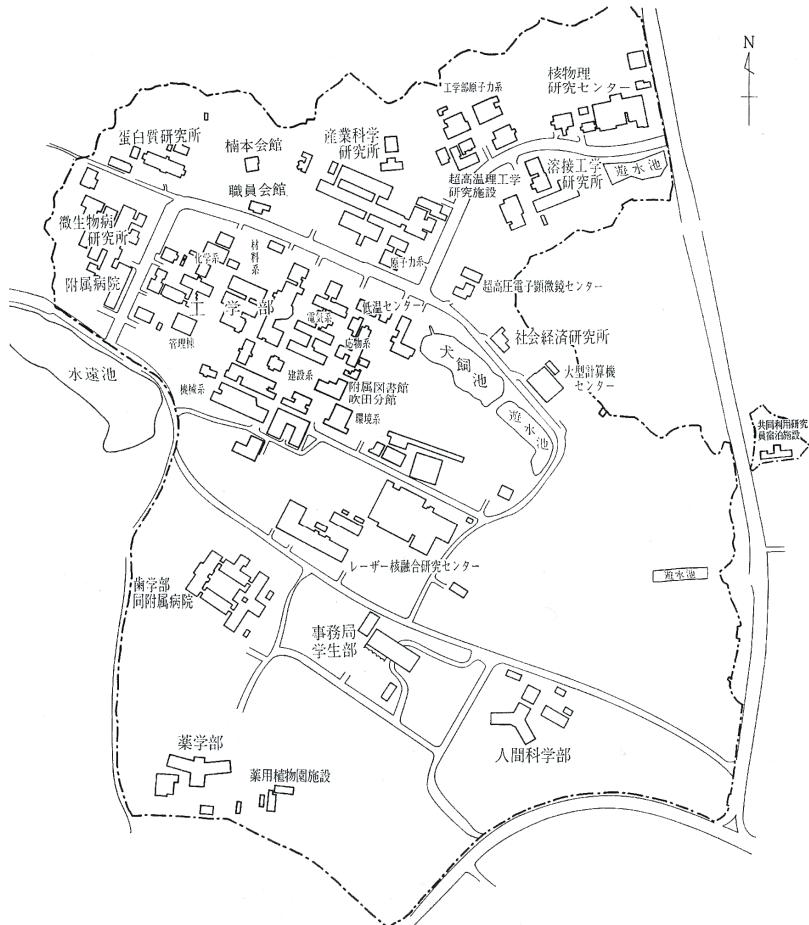


図4-7 吹田地区配置図 1982年現在

から約33万m²を入手する必要があり、その取得についても関係筋に積極的に働きかけた。その結果、1966年5月に大阪府が発表した万国博覧会跡地利用計画第2次案のなかには本学を含む学園地区として71万m²が計上された。このように跡地取得に関して希望の持てる状態で、1966年5月14日、総長赤堀、吹田市長村田、文部省管理局長天城歎、関経連会長阿部孝次郎および移転部局関係者が出席して本学吹田

地区起工式が挙行された。その後ブルドーザーで整地され始めたが、千里丘陵に響きわたつたその音は吹田地区的幕あけを告げるものだった。

大阪大学五十年史 第4編大阪大学の発展
第4節 吹田地区から抜粋(一部を修正しています)



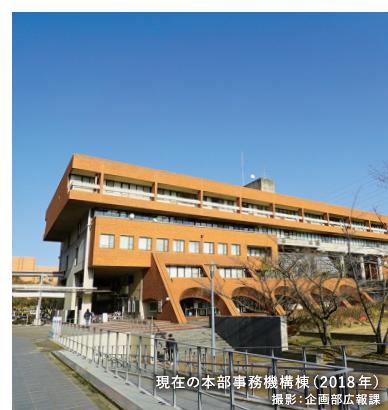
吹田キャンパス空中写真(1978年)
出典:大阪大学総はがき(第4集)

吹田への移転

8代岡田實総長による隨想

私が一番考えたのは、枚方が非常に便利悪いんです。だから、工学部は何とか集まることが必要だと思いました。当時お城の下と枚方と東野田と三つに分かれていたのです。少なくとも工学部を一ヵ所にするぐらいのことを考えなければいけないし、またそれよりも大阪大学そのものが、石橋にあり中之島にあり、それから工学部は分かれているでしょう。産研は産研で堺にある。そんなふうでタコ足大学の代表みたいな状態だったわけですよ。工学部が率先してでも、みんなで集結するようにリーダーシップをとるというのです。

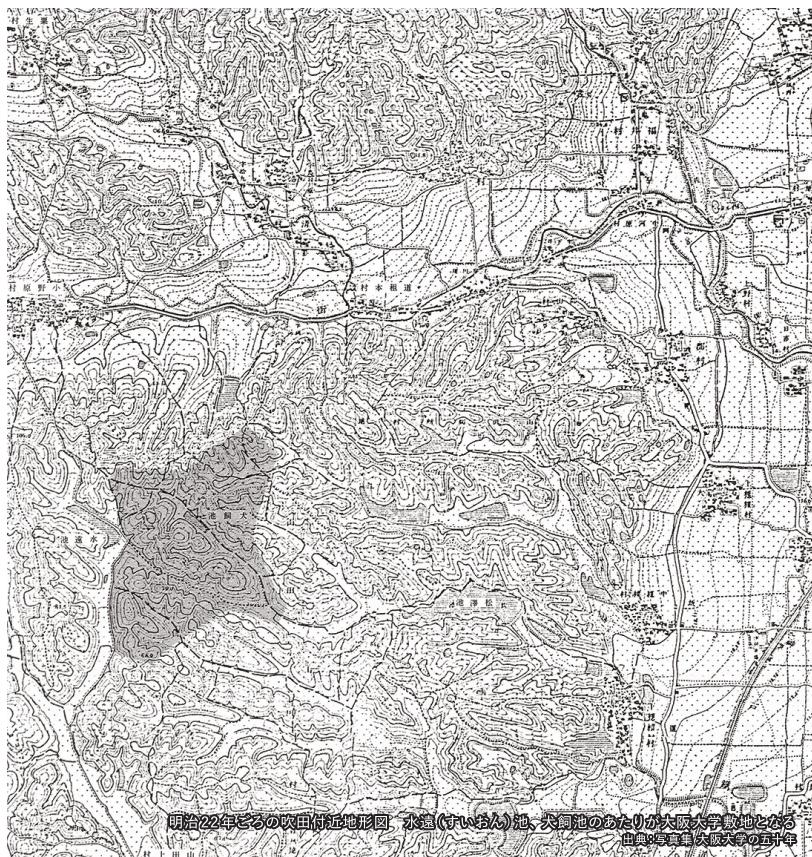
まず大阪大学だから、大阪府下で適当なところを選ぼうというので、バスを雇って随分色々を探したんです。南進もありました。長野の辺まで行ったんですよ。河内長野の辺まで行きましたね。それでみたけれども南の方は便利が悪いので、できれば北の方がいいと考えました。



その前に田中清先生(土木工学科)が阪大の将来計画の委員長をやっておりましたとき、田中先生は、今の石橋は将来交通の要衝になって非常に殺到するところだから、あそこはいけないと仰っていました。しかし、あそこを拡張するという案があったんです。南の方は田中先生の意見でも、あまり歓迎されなかつたんです。どうしても北部の方へと先生はいっていました。

私がずっと欧州、アメリカを回ってきて、大体一つの総合大学のキャンパスの単位は50万坪ぐらいが必要だと思いました。それで統合集結できたら、大阪大学も立派になるだろうと、50万坪ぐらいを標榜していろいろ探しておったときに、吹田の市長が、吹田市は本当に文化的にいいところがないと言うんですよ。それで文化的な街にしたいので、阪大が吹田に来るなら、応援をするという話を多賀谷(正義・工学部教授)先生が持ってきたんです。多賀谷先生は吹田市の水道部の顧問をしておられたのです。そこで私はすぐ吹田市へ行きました。そして今あるこの辺を、

8代総長 岡田 實(当時工学部長)
座談会:大阪大学工学部の戦後史
(『大阪大学史紀要 第1号』1981年)より



移転前夜

大阪大学 名誉教授 脇田 修

この(吹田キャンパスへの移転)以前の状況については、千里丘陵のなかで竹林と松と雜木山が続き、溜め池と田畠があって、そのなかを吹田から北へ向かう道が通っていた。それは今も部分的に残っている風景から想像してもららうしかないが、その変貌はいちじるしい。

千里ニュー・タウンができ、万博がおこなわれ、その跡地に万博公園ができるが、なによりも国立民族学博物館ができ、中之島などにあった大阪大学の本部事務局や学部・研究所・センターまた病院が移転てきて、ここは新たな文教地区になった。

吹田の町は、神崎川に沿った交通の要衝であり、また風光明媚なところから平安貴族の別荘がおかれるような土地であった。しかしその北の千里丘陵は、先に記したよりも原野的な状況であったから、平安時代には摂関家

領垂水東牧が置かれていた。牧というのは、牛馬などの飼育・放牧をおこなうところである。

それでも中世以降には開発が進み、近世初期には山田郷五か村とされる上・中・下・小川・別所の各村が成立している。そして大阪大学の敷地は、山田村のなかで、もつとも北部にある上村の土地ではなかったかと考えている。

これらの村々は、幕府直轄領から、譜代大名の領地となり、中期以降は淀藩・稻葉家の支配が多かった。上村でいうと幕府直轄領・京都所司代板倉重宗・淀城主石川・松平・稻葉諸家の所領となっていた。

さて時代によって異なるが、上村の高は1千石を越え、1,512石余を記録したこともある大村であるが、その40パーセント余が、近世前期に板倉が新田分と認めたものであったから、この開発の盛んなことを知りうる。またこの地域は木綿・蔬菜などの作付けが多くなったが、上村は稻作が主で、本田分で80パーセント余、新田分でも55パーセントとなっていた。このため多くの

溜め池をつくって、灌漑用水を確保したのである。したがって池水の管理はきびしかった。キャンパス内の犬飼池などについての事情はわからないが、元禄6年(1693年)山田五か村が結んだ新池に関する取決めは、取水の順や違反のさいの罰金など詳細を極めている。

吹田キャンパスは千里丘陵内にあったため、他の地区のような華やかな歴史はないが、ここでも先人が生活向上のために、新田開発に務め、大きな努力を払ったことがわかる。ここではそれを少し追ってみた。

●脇田 修(わきた おさむ) プロフィール

1931年大阪市生まれ。京都大学大学院博士課程単位取得。京都大学文学博士。大阪大学文学部教授、文学部長、評議員などを務める。94年大阪大学名誉教授。大阪大学出版会会長、大阪歴史博物館館長などを歴任。

学報 第530号・大阪大学夜話第九話
『吹田キャンパス』より抜粋(一部を修正しています)

大阪大学行動規範

平成30年1月1日 制定

国立大学法人大阪大学(以下「大阪大学」という。)は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーとする世界屈指の研究型総合大学として、地域と国ひいては人類の発展に寄与するという社会的使命と業務の公共性から、高い倫理観に基づき、法令等を厳格に遵守とともに、健全かつ公正な大学運営を行なうことが求められています。

これらの要請に応えるため、「大阪大学憲章」に掲げる基本理念を踏まえつつ、私たち役員及び教職員等が、日常業務において不断に実行すべき事項として、以下のとおり「大阪大学行動規範」を定めます。

第1 業務遂行の基本姿勢

私たちは、大阪大学の社会的使命を果たすため、適切な役割分担のもと連携体制を確保し、各々の協働によりその業務が行われるよう留意しつつ、教育、研究及び診療を含む社会貢献に真摯に取り組みます。

1 高度な教育の推進

私たちは、教育においてあらゆる学生の人格、意見を尊重しながら、豊かな人間性、高い倫理観を育むとともに、「高度な専門性と深い学識」及び「教養・デザイン力・国際性」を備えた有能な人材を育成し、社会の負託に応えます。

2 世界最高水準の研究の推進

私たちは、様々な分野における世界最高水準の基礎的・基盤的研究や学際融合研究を推進し、その中で生み出される多様な「知」とその深化を通じて世界的課題の解決に貢献することで、人類社会の発展に寄与します。

3 社会貢献の推進

私たちは、地域・国際社会、関係機関などに対して、自らの諸活動を積極的に公表し、大阪大学に対する理解の向上と信頼の確保に努めます。また、多様な文化的背景をもつ人々との切磋琢磨を通じて教育研究を深化させ、社会との共創により得られた成果を積極的に社会に還元することで、社会の発展に貢献します。

第2 コンプライアンスの徹底

私たちは、人権擁護やコンプライアンスに対する意識を高め、法令及び学内規則並びに教育、研究及び診療に係る倫理その他の規範を厳格に遵守し、健全かつ公正で安全な業務遂行に徹することにより、社会からの信頼の確保に努めます。

1 人権の尊重

私たちは、一人ひとりの人権と人格を尊重するとともに、あらゆる差別やハラスメントを許さず、文化、言語及びジェンダーを超えて多様な個性と能力が存分に發揮できる学修、研究及び就業の環境を整備します。

2 公正な研究活動の推進

私たちは、研究倫理及び研究に係る法令や指針等の遵守を徹底することで、公正な研究活動を推進し、研究活動における不正行為は行いません。

3 資金の適正使用と適切な資産管理

私たちは、運営・活動資金の多くが税金その他社会からの支援等によるものであり、不正使用等は大阪大学への信頼と負託を大きく損なうものであることを深く認識し、資金を適正に使用します。また、教育研究活動等を通じて得られた知的財産や機密情報などの有形・無形の資産を適切に保持及び活用するとともに、第三者の資産を適切に取り扱います。

4 個人情報の保護と情報セキュリティの向上

私たちは、個人情報を適正に取得し、不正や漏えいが生じないよう適切な管理と保護を行います。また、情報関連業務を遂行するにあたり、情報セキュリティ上の脅威と保有する情報の機密性を十分に認識し、情報セキュリティ対策についての責務を果たすとともに、適切な管理と運用を行います。

5 安全衛生の確保と環境保全

私たちは、大阪大学の業務を遂行するにあたり、安全衛生に対する意識を高め、安全かつ快適な学修、研究及び就業の環境を整備するとともに、自然環境に不当な影響を及ぼすことのないよう環境保全に努めます。



大阪大学行動規範は、
大阪大学憲章や「地域に生き世界に伸びる」の
モットーを踏まえた本学の価値観を共有し、
今一度全ての役員、教職員が自らの足元を見つめ直し、
健全で公正な大学運営を行っていきたい。
その実現のための拠り所として制定しました。

ここに記載された事項は、
私たち一人ひとりが心掛けるべきこととして
様々な場面で確認されてきたことの集大成です。

これを 心に刻み

邁進して参りましょう。

役員室だより

from:マイ ハンダイ

Open Education

学生支援担当理事

大阪大学キャリアセンターを設置

全学的立場から学生のキャリア形成を推進し、キャリア教育・支援体制の充実、人材育成能力向上の実現を図るため、平成29年12月1日付けで設置しました。

阪大の“いま”に今すぐアクセス!
>> <https://my.osaka-u.ac.jp/>
マイハンダイに掲載中の役員室だよりから
タイトルのみを掲載しています。



Open Research

研究オフィス

「研究大学強化促進事業」の中間評価発表で、本学は最高のS評価

URAの雇用形態とキャリアパスの構築、URAの効果的活用、学内資源の再配分等の取組が評価されました。

国際共同研究促進プログラム－平成30年度開始分を募集中です－

海外で最先端の研究を展開している研究者との共同研究を支援します。ぜひご活用ください。

グローバル連携オフィス

新生PROSPECTUS 2018、仕様を2冊組に一新して発行!

海外の学生・研究者向けに大阪大学を紹介する英文冊子「プロスペクタス」を発行しました。

不正使用防止計画推進室

不正使用の根絶に向けて一人一人が適切な経費の管理と執行を!

本学は「公的研究費の不正使用」が起きない、起こさない環境づくりに誠実に取り組んでいます。

海外出張、
来客対応にご活用ください!

迷ったらすぐご相談を!

Open Innovation

大学経営総括理事

持続可能な共生社会の実現に向けて「社会ソリューションイニシアティブ」を設置

日本社会やグローバル社会が抱える諸課題を発見し、解決策を提案する人文社会科学系のシンクタンク拠点として、平成30年1月1日付けで設置しました。

共創推進担当理事

大阪大学共創機構を設置

「共創」により、社会変革に貢献する世界屈指のイノベーティブな大学となることを目指し、平成30年1月1日付けで設置しました。

産学共創本部

大阪大学Innovators' Clubの設立

イノベーションや新規事業・スタートアップ・学生起業に興味のある学生たちが学部等を問わず集まるコミュニティで、こうした学生の自主活動を支援します。

産学共創本部が進め
新たなイノベーション教育!

Open Community

サステナブルキャンパスオフィス

竹林の間伐など豊中キャンパスにおける地域連携活動にご参加を!

サステナブルキャンパスオフィス教員と地域との協働により、竹林の間伐、清掃活動を行っています。詳細はKOAN等に随時掲載しますので、ぜひご参加ください。

「環境報告書2017」を公表

本学の環境に対する取組活動をまとめた環境報告書2017を公表しました。
環境負荷低減を目指して、全学あげての省エネへのご協力をお願いします。

社学共創本部

環境報告書は
本学ホームページから!

大阪府と包括連携協定を締結／府が初めて大学と！

人材育成・教育、調査・研究及び事業の実施、産学共創・産業振興、ダイバーシティの推進などを目的に包括連携協定を締結しました。

日経グローカル「大学の地域貢献度ランキング」結果公表－阪大は第1位！－

本学は全国748の国公私立大学の中で第1位となりました。
これまでの社学連携、産学連携、グローバル人材の育成などでの取組が評価されました。皆様の取組の結果です！

グローバル連携オフィス

日独6大学ネットワーク(HeKKSaGOn)総会を吹田キャンパスで開催します

4月12日(木)～13日(金)には、6大学の学長をはじめ、日独の学生・研究者100名以上が参加予定です。
多くの部局の先生方にご協力いただきながら、お迎えの準備を進めています。

Open Governance

計画評価オフィス

ご力ありがとうございました！

平成28年度業務実績評価結果で最高評価を獲得！

本学の強み・特色を生かした取組が、平成28年度業務実績評価結果において、最高評価である特筆すべき取組として評価されました。

財務オフィス

コスト意識をもって仕事をしましょう！

複写経費(年間:1.9億円)の削減にご協力を！

複写経費の削減のため、印刷枚数抑制ソフト(ポップアップツール)の活用をお願いします。

人事労務オフィス

駐大阪・神戸米国総領事館／関経連主催「女性のエンパワメントのための『米国派遣プログラム2017』」に本学女性職員が初参加！

企業からの参加者と共に、約半年に及ぶ国内外の研修で多くのことを学びました。今後も積極的に女性活躍推進に取り組みます。

働き方改革に向けた取組みについて大阪労働局長と意見交換を実施

大阪労働局長が本学を訪問し、働き方改革に向け、人事労務担当理事との意見交換が行われました。

各タイトルの記事の全容はマイハンダイをご覧ください。

受賞・表彰

平成29年秋の褒章・叙勲		受賞者	所属
紫綬褒章		小溝 裕一 名誉教授	接合科学研究所
瑞宝中綬章		祖父江 鎮雄 名誉教授	歯学部
		藤田 正憲 名誉教授	工学部
		都倉 信樹 名誉教授	基礎工学部
		新原 眞一 名誉教授	産業科学研究所
瑞宝単光章		萩原 さがみ 元副看護部長	医学部附属病院
瑞宝双光章		川西 正光 元事務部長	産業科学研究所

平成29年度大阪大学賞

大学運営部門		教育貢献部門		若手教員部門	
所属	氏名	所属	氏名	所属	氏名
経営企画オフィス	望月 麻友美 准教授	人間科学研究科	西森 年寿 准教授	サイバーメディアセンター	安福 健祐 講師
	大屋 知子 特任准教授(常勤)	経済学研究科	松村 真宏 教授		Donzé Pierre-Yves 教授
	姚 馨 特任講師(常勤)	薬学研究科	八木 清仁 教授		輪島 裕介 准教授
総務部人事課	エコ・レンジャー スタッフ及び リーダー(59名)		工学研究科	市 大樹 准教授	市 大樹 准教授
	大林 小織 准教授		経済学研究科	桑木野 幸司 准教授	桑木野 幸司 准教授
グローバル イニシアティブ・ センター	古谷 能子 特任事務職員		理学研究科	勝又 壮太郎 准教授	勝又 壮太郎 准教授
	大林 小織 准教授		基礎工学研究科	廣野 哲朗 准教授	高島 義徳 講師
人間科学研究科	上田 功 教授		言語文化研究科	近藤 誠 准教授	近藤 誠 准教授
	楠本 真二 教授		情報科学研究科	有澤 光弘 准教授	有澤 光弘 准教授
歯学研究科	矢内 直人 助教		言語文化研究科	西田 理恵子 准教授	西田 理恵子 准教授
	坂尻 彰宏 准教授		全学教育推進 機構	前川 卓也 准教授	前川 卓也 准教授
工学研究科	堀 一成 准教授		生命機能研究科	石井 優 教授	石井 優 教授
	吉村 政志 教授		微生物病研究所	佐藤 莊 助教	佐藤 莊 助教
全学教育推進 機構	金 孝卿 特任准教授(常勤)		産業科学研究所	多根 正和 准教授	多根 正和 准教授
	八木 紘香 准教授		社会経済研究所	犬飼 佳吾 講師	犬飼 佳吾 講師
COデザイン センター	坂和 洋一 准教授		接合科学研究所	茂田 正哉 准教授	茂田 正哉 准教授
	坂和 洋一 准教授		レーザー科学 研究所	余語 覚文 准教授	余語 覚文 准教授

平成29年度永年勤続者表彰

受賞者	所属	受賞者	所属
中村 太	総務部人事課	中橋 仁	不正使用防止計画推進室
大野 綾子	総務部人事課	藤間 隆行	ハウジング課
大谷 裕子	総務部人事課	大塚 志乃	附属図書館図書館企画課
宗廣 亘	総務部人事課	赤井 規晃	附属図書館吹田地区図書館 サービス課
森 宏之	教育・学生支援部入試課	井上 敏宏	附属図書館箕面地区図書館 サービス課
堀井 奈津子	研究推進・産学連携部 研究推進課	西尾 真樹	人間科学研究科
城戸 尚久	国際部国際企画課	石木 栄一	経済学研究科・ 国際公共政策研究科
東堤 忠勝	財務部財務課	梶 文夫	医学部
木越 信一郎	情報推進部情報基盤課	山上 徹	医学部附属病院総務課
多田 克幸	情報推進部情報基盤課		
釣上 真史	施設部整備課		

濱田 和世	医学部附属病院総務課	林 純子	医学部附属病院
宮永 量子	医学部附属病院管理課	上野 真弓	医学部附属病院
久米 豊史	医学部附属病院管理課	鈴木 千代子	医学部附属病院
田仲 裕一	医学部附属病院管理課	田村 孝子	医学部附属病院
岡 慎二	医学部附属病院 教育研究支援課	島田 里香	医学部附属病院
中継 希江	医学部附属病院	花井 崇	歯学研究科総務課
西原 恵子	医学部附属病院	小西 健	歯学研究科業務課
小野 志保	医学部附属病院	薮 智子	歯学部附属病院
森田 聰子	医学部附属病院	山上 千夏	歯学部附属病院
堀 麻衣子	医学部附属病院	西村 友里	工学研究科教務課
山 直子	医学部附属病院	宮武 知子	基礎工学研究科
牲川 いさ子	医学部附属病院	坂口 明	科学機器リノベーション・ 工作支援センター
朝日 佳代子	医学部附属病院	辻 敏彦	国際教育共通事務室
有村 武浩	医学部附属病院		

平成29年度退職時永年勤続者表彰

受賞者	所属	受賞者	所属
佐藤 雅展	施設部企画課	黒杭 裕	社会経済研究所
受賞等		受賞者	所属
「ALTAN GADAS(北極星勲章)」 (モンゴル国における最高の国家勲章)		マハバル サウカゲルさん (M)	文学研究科
第七回社会調査協会賞優秀研究活動賞		中澤 渉 准教授	人間科学研究科
第11回ベトナム語スピーチコンテスト最優秀賞【朗読部門】		浜崎 紗英さん(B)	外国語学部
第11回ベトナム語スピーチコンテストカテゴリーB 【2年生のスピーチ部門】1位		森本 大聖さん(B)	外国語学部
第11回ベトナム語スピーチコンテストカテゴリーB 【2年生のスピーチ部門】3位		浅田 奈々さん(B)	外国語学部
第11回ベトナム語スピーチコンテストカテゴリーD 【留学経験者3・4年生のスピーチ部門】1位		芦田 春佳さん(B)	外国語学部
ISFJ日本政策学生会議2017政策フォーラム 政策提言賞 (※2年ぶり4度目の受賞)		法学部国際公共政策学科 赤井伸郎ゼミ	法学部
WEST論文研究発表会2017 最優秀論文賞(※7年連続受賞)		法学部国際公共政策学科 赤井伸郎ゼミ	法学部
第32回西宮湯川記念賞		深谷 英則 助教	理学研究科
科学技術振興機構 CREST「分子技術」領域 ライジング・スター賞		山下 智史 助教	理学研究科
William F. Giauque Award CALCON2017		今城 周作さん(D)	理学研究科
優秀発表賞 Mutlis2017		今城 周作さん(D)	理学研究科
第53回熱測定討論会 山笠賞		野本 哲也さん(M)	理学研究科
第55回 癌治療学会学術集会優秀演題賞		氏家 剛 助教	医学系研究科
2017年 IJCO 優秀論文賞		永原 啓 助教	医学系研究科
第105回 日本泌尿器科学会総会賞		川村 憲彦さん(D) 河嶋 厚成 助教 中澤 成晃さん(D)	医学系研究科 医学系研究科 医学系研究科
日本医師会研究奨励賞		中田 慎一郎 教授	医学系研究科
平成29年度医学教育等関係業務功労者表彰		重松 弘子さん(薬剤師)	医学部附属病院
第29回歯科基礎医学会 学会奨励賞		山口 雅也 助教	歯学研究科
第70回日本細菌学会関西支部総会 若手研究者奨励賞		後藤 花奈さん(D)	歯学研究科
日本水処理生物学会第54回大会「ベストプレゼンテーション賞」		久田 一輝さん(M) 中澤 昌俊さん(B)	工学研究科 工学部

YABEC 2017 Poster Award	山野 範子 招へい教員	工学研究科	2017年度九州大学医学博士優秀賞	永田 雅大 特任研究員	微生物病研究所
2017 IEEE International Conference on Cyborg and Bionic Systems「Best Conference Paper Award」	高山 俊男 准教授 金子 真 教授	工学研究科 工学研究科	平成29年度日本ウイルス学会杉浦奨励賞	福原 崇介 助教	微生物病研究所
2017年度 日本リスク研究学会 大会優秀発表賞	豊田 真弘さん(M)	工学研究科	第65回日本ウイルス学会学術集会 ベストポスター賞	納田 遼太郎さん(医M)	微生物病研究所
2017年度 日本リスク研究学会 奨励賞	小島 直也 助教	工学研究科	臨床医学研究塾 研究奨励賞	土師 正二郎 さん(特)	微生物病研究所
2017年度 日本繊維機械学会賞 学術研究奨励賞	倉敷 哲生 准教授	工学研究科	Kishimoto Travel Awards by the International Cytokine and Interferon Society 2017	渡邊 美幸 さん(特)	微生物病研究所
The 2017 International Symposium on Nonlinear Theory and Its Applications (NOLTA2017)「Student Paper Award」	増田 容一 日本学術振興会特別研究員	工学研究科	Highly Cited Researchers 2017	佐藤 慎太郎 特任准教授(常勤)	微生物病研究所
SWARM2017「Best Paper Award」	佐藤 訓志 講師	工学研究科	Highly Cited Researchers 2017	山本 雅裕 教授	微生物病研究所
IEICE NOLTA Society「NOLTA Best Paper Award」	杉本 靖博 准教授 木林 傑さん(M) 石川 将人 教授 大須賀 公一 教授	工学研究科 工学研究科 工学研究科 工学研究科	2017年度武田医学賞	木下 夕ロウ 寄附研究部門教授	微生物病研究所
Society for Risk Analysis 「2017 Distinguished Achievement Award」	東海 明宏 教授	工学研究科	第70回日本細菌学会関西支部総会 若手研究者奨励賞	照屋 志帆乃さん(医D)	微生物病研究所
第64回土木学会海岸工学講演会「海岸工学論文賞」	入江 政安 准教授 林 政宏さん(M) 岡田 輝久さん(D)	工学研究科 工学研究科 工学研究科	第70回日本細菌学会関西支部総会 若手研究者奨励賞	Sarunporn Tandhavanantさん(医D)	微生物病研究所
Stanford's Health Hackathon health++ 2017 「Grand Prize: 3rd Place」「Persistent-Neodesign prize」	山薦 栄太郎さん(D)	工学研究科	2017年 Ursula and Fritz Melchers Travel Award	金丸 央さん(医D)	微生物病研究所
クロマトグラフィー科学会 奨励賞	岡本 行弘 准教授	基礎工学研究科	第4回(平成29年)日本免疫学会 ヒト免疫研究賞	木下 夕ロウ 寄附研究部門教授	微生物病研究所
Outstanding contribution in reviewing (Sensors and Actuators: B. Chemicals)	岡本 行弘 准教授	基礎工学研究科	第12回(平成29年)日本免疫学会研究奨励賞	笹井 美和 准教授	微生物病研究所
Outstanding contribution in reviewing (Journal of chromatographyA)	岡本 行弘 准教授	基礎工学研究科	第9回日本RNAi研究会・第4回日本細胞外小胞学会 優秀口頭発表賞	曾宮 正晴 助教	産業科学研究所
日本知能情報ファジィ学会貢献賞	乾口 雅弘 教授	基礎工学研究科	The 33rd International Korea-Japan Seminar on Ceramics, Young Ceramist Best Presentation Award	後藤 知代 助教	産業科学研究所
混相流シンポジウム 2017ベストプレゼンテーションアワード	小山 幹さん(M)	基礎工学研究科	2nd Prize in the Best Young Researcher Contribution Contest	鬼塚 裕也さん(理D)	産業科学研究所
一般社団法人 日本コンピュータ外科学会 2017年度論文賞(医学賞)	小林 洋 准教授	基礎工学研究科	科学技術振興機構 理事長賞	山崎 聖司 助教	産業科学研究所
日本機械学会 創立120周年記念功労表彰者	和田 成生 教授	基礎工学研究科	第二回 COI若手イノベーションピッチベストプレゼンター賞	山崎 聖司 助教	産業科学研究所
日本機械学会 バイオエンジニアリング部門 第26回業績賞	和田 成生 教授	基礎工学研究科	公益社団法人有機合成化学協会 第15回支部賞	開發 邦宏 特任准教授(常勤)	産業科学研究所
第2回日本アメリカ文学会賞	渡邊 克昭 教授	言語文化研究科・ 外国語学部	2017清華大学一大阪大学国際学生シンポジウム 優秀発表賞	徐 子暢さん(理M)	産業科学研究所
日本翻訳家協会翻訳特別賞	南田 みどり 名誉教授	言語文化研究科・ 外国語学部	第20回カルシウム結合蛋白質とカルシウム機構の生理と病態に関する 国際シンポジウム(CaBP20)、優秀ポスター賞	Md. Nadim Hossainさん (工D)	産業科学研究所
平成29年度 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award (前期分)	下田 真唯子さん(特)	微生物病研究所	第55回日本生物物理学年会学生発表賞	篠田 肇さん(工D)	産業科学研究所
第57回日本呼吸器学会学術講演会 International Session Award	福島 清春さん(医D)	微生物病研究所	粉体工学会 第24回粉体工学研究奨励賞	小澤 隆弘 助教	接合科学研究所
平成29年度日本実験動物学会 奨励賞	藤原 祥高 助教	微生物病研究所	The American Welding Society Professor Koichi Masubuchi Award	三上 欣希 准教授	接合科学研究所
第9回シグナルネットワーク研究会 奨励賞	木村 哲也 招へい研究員	微生物病研究所	公益社団法人日本材料学会 衝撃部門委員会 「第12回材料の衝撃問題シンポジウム」優秀講演賞	高嶋 康人 助教	接合科学研究所
第9回シグナルネットワーク研究会 奨励賞	塚本 晃久さん(理D)	微生物病研究所	MTSA2017-OptoX- Nano-TeraNano 8 Comm-O-Ka Best Student Award 2017 Scanning laser terahertz near-field reflection spectroscopy and imaging system for bio-applications	岡田 航介さん(工M)	レーザー科学研究所
日本小児神経学会 英語演題奨励賞	村上 良子 寄附研究部門教授	微生物病研究所	プラズマ・核融合学会第22回技術進歩賞	藤岡 慎介 教授 長友 英夫 准教授	レーザー科学研究所 レーザー科学研究所
ASV 2017 Postdoctoral Fellow Travel Award	寺田 豊 特任研究員	微生物病研究所	プラズマ・核融合学会若手発表賞	加藤 弘樹 さん(理D)	レーザー科学研究所
第13回血液学若手研究者麒麟塾 麒麟児賞	佐藤 莊 助教	微生物病研究所	公益社団法人日本アイソトープ協会放射線安全管理奨励賞	鈴木 智和 助教	核物理研究センター
Travel award, KVS MO 2017 & 15th Japan-Korea Joint Symposium of Vascular Biology	村松 史隆 特任研究員	微生物病研究所	Highly Cited Researchers 2017	審良 静男 教授	免疫学フロンティア 研究センター
Travel award, KVS MO 2017 & 15th Japan-Korea Joint Symposium of Vascular Biology	林 弓美子さん(医D)	微生物病研究所	第12回(平成29年)日本免疫学会研究奨励賞	平安 恒幸 特任助教(常勤)	免疫学フロンティア 研究センター
日本応用酸素協会 2017年度若手研究助成事業 Vascular Biology Innovationに関する研究助成 (VBIC) 最優秀賞	木戸屋 浩康 助教	微生物病研究所			
Excellence Poster Award, KVS MO 2017 & 15th Japan-Korea Joint Symposium of Vascular Biology	林 弓美子さん(医D)	微生物病研究所			

D:博士後期課程(D、Mの前の理／医／工は受賞者の学籍がある研究科を表す) M:博士前期課程 B:学部生 特:特別研究学生

※受賞や表彰を受けられた場合は、部局広報担当係を通じて広報課までお知らせください。

新総長特命補佐

発令日	氏名	主な特命事項
平成30年1月9日	深瀬 浩一(理学研究科教授)	学生支援関係
平成30年1月9日	土井 健史(薬学研究科教授)	学生支援関係
平成30年1月9日	馬場口 登(工学研究科教授)	学生支援関係

新部局長

発令日	部局	氏名
平成30年1月1日	社会ソリューションイニシアティブ長	堂目 卓生

新教授

発令日	氏名	所属	前職
平成29年12月1日	石渡 通徳	基礎工学研究科システム創成専攻 数理モデル講座	本学准教授
平成29年12月16日	内山 進	工学研究科生命先端工学専攻 生物工学講座	本学准教授
平成30年1月1日	小泉 雄一郎	工学研究科マテリアル生産科学専攻 材料エネルギー理工学講座	東北大学

訃 報

先導的学際研究機構	FAENOV Anatoly 特任教授(常勤)	平成29年11月3日 逝去
医学部	稻邑 清也 名誉教授	平成29年11月23日 逝去
国際公共政策研究科	森本 益之 名誉教授	平成29年11月24日 逝去
理学部	池田 信行 名誉教授	平成30年1月16日 逝去
元総長	熊谷 信昭 名誉教授	平成30年1月21日 逝去

退職教授の記念講義

平成30年3月に定年等で退職される教授の記念講義(最終講義等)を本学公式ホームページ「イベント情報」でお知らせしています。※最新情報に随時更新します。

【退職教授による記念講義(最終講義等)のご案内】▷ http://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/event/2018/01/12_01

大阪大学の医学教育・研究・診療を支援する



一般財団法人 恵濟団

大阪大学医学部附属病院内の売店(ローソン)、
薬店、食堂、サブウェイを経営しています。

阪印
信頼と実績

昭和44年創業以来、「お客様の気持ちを第一に」を社はとして歩んでまいりました。
培ってきた信頼と実績が私たちの誇りです。

〒553-0004 大阪市福島区玉川3-6-4
TEL:06-6443-0936 FAX:06-6443-1684 E-mail:bandopv@skyblue.ocn.ne.jp

QS

「アジア世界大学ランキング2018」で、
本学は国内第3位



Clarivate Analyticsの
Highly Cited Researchersに
本学から8名選出



「大阪大学の集い
in 東京」を開催



阪大生4名(外)が「第11回
ベトナム語スピーチコンテスト」
で最優秀賞受賞など入賞



平成29年度大阪大学
全学教育優秀賞表彰式を開催



環境サークルGECSが「全国大学生環境活動
コンテスト」でグランプリ等を獲得



平成29年度
日本学生支援機構
優秀学生顕彰で
寺本将行さん(医)が
大賞を受賞



阪大生
チーム(法)が
「学生による
政策提言論文
大会」で7年
連続最優秀賞
など受賞



男子ラクロス部が
2年ぶりの関西
制覇&全国準優勝



漕艇部が
全日本選手権で
3位入賞



スタンフォード大で
開催のhealth++
Stanford's Health
Hackathonで
阪大生2名(医・工)が
参加したチームが
総合3位を獲得



阪大のメディア露出 3か月で427に!
(対象期間 2017/10/1~12/31)

マイハンダイでは、毎日、大阪大学のメディア露出状況をお知らせしています。
上記期間にTV、新聞、Web等に掲載された記事は427種類に上りました。

※ プレスリリースとあわせて、記者会見を行ううとメディアに掲載される率は高まります。研究成果やイベント等のプレスリリースのご相談は、各部局の広報担当部署へ!

訃報

熊谷信昭 元総長が逝去されました

熊谷信昭 元総長(12代総長:昭和60年8月26日～平成3年8月25日)が平成30年1月21日に逝去されました。

ここに謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。



Information 詳細は、本学公式ウェブページ(www.osaka-u.ac.jp)「イベント情報」をご覧ください。

大阪大学シンポジウム 「ダイバーシティが拓く、関西の未来」

日 時：平成30年2月5日(月)
14:00～17:30(開場13:30)
会 場：グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)
12階特別会議場
(大阪府大阪市北区中之島5-3-51)
プログラム：来賓挨拶／14:00～14:20
基調講演／14:20～15:40
パネルディスカッション／15:50～17:25
閉会挨拶／17:25～17:30



平成29年度 大阪大学卒業式・ 大学院学位記授与式

開催日時：平成30年3月22日(木)
11:00～12:00
9:30 入場開始 10:30 入場完了
開催場所：大阪城ホール

平成30年度 大阪大学入学式

開催日時：平成30年4月3日(火)
13:30～14:15
12:00 入場開始 13:00 入場完了
開催場所：大阪城ホール